

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075400327		
法人名	ケア・サービス 株式会社		
事業所名	グループホーム かえで		
所在地	〒807-1307 福岡県鞍手郡鞍手町大字室木801番地		TEL 0949-43-3900
自己評価作成日	令和05年11月29日	評価結果確定日	令和06年01月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

アピール点… スケジュールを組まず、利用者様全員が自由に行動が出来る環境である点や、利用者様に対して優しい声掛け、冗談を言い合える信頼関係が築けてる点等です。特に力を入れている点…利用者様の健康面での、医療機関との連携に、ご家族との信頼関係やスタッフ全員が働きやすく、笑顔の絶えない環境作りを力を入れてます。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php</a>
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号		TEL 093-582-0294
訪問調査日	令和06年01月10日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鞍手町郊外の自然が残る広い敷地の中で、開設19年目を迎える地域密着型グループホームである。シンボルツリーの楓の木が中庭に植えられ、利用者は広いウッドデッキに出て四季を五感で感じ取り、明るく開放的な環境の中で、床暖房や24時間の空調システム等、利用者が快適に過ごせる設備を整えている。新鮮な食材を使って調理上手な職員がユニット毎に作る料理は、「美味しい」と好評で、利用者の大きな楽しみとなっている。提携医療機関医師による定期的な往診と利用者の希望に応じたの病院受診を併用し、看護師や介護職員との連携で、安心の医療体制が整っている。勤務年数の長い職員が定着し、経験の浅い職員を育てながら、それぞれの良さを尊重したチーム介護で利用者寄り添い、元気で明るい笑顔の利用者を見守る家族は、喜びと感謝に包まれ、利用者や家族と深い信頼関係を築いている「グループホーム かえで」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念共有に関して、ミーティングや社員教育等で「ぬくもり・安心・やさしさ・そして地域とふれあい」を心に刻んで、ケアに取り込む様心掛けています。樹街・華街同様です。	ホームが目指す介護理念を見やすい場所に掲示し、パンフレットにも載せて理念の周知を図っている。職員一人ひとりが理念の意義を理解し、利用者本位の介護サービスの取り組みと、地域に開かれた愛されるグループホームを目指して日々努力している。	理念は自分たちが行う介護サービスの柱として大切にされるものである。定期的に理念を振り返る機会を設ける事を期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナが五類になり、緩和されボランティア・地域の小学校からのふれあいを考えていた矢先、スタッフに利用者様のコロナ陽性者が出られたりはありませんが、少しずつ開催へ向け取り組んでいきたいと思えます。	自治会に加入し、新型コロナ5類移行に伴い、地域のイベントへの参加を通して、地域との交流をコロナ状況を判断しながら再開し、近隣小学校の運動会見学や年2回行われる5、6年生の児童との親睦会を開催して利用者の楽しみに繋げている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の医療関係の、介護連携推進会議の参加の実践に取り組んでいる。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染が施設職員や、利用者様が陽性が出たり、治まっては又出たりと中々難しい状況ではありましたが、R5年10月より開催出来る様になり、サービス向上へ向け努力していきます。	新型コロナ5類移行に伴い、対面式の会議を再開し、併設小規模多機能ホームと合同で2ヶ月毎に実施している。ホームの運営や取り組み、利用者状況や事故等を報告し、委員から意見や質問、情報等を提案し、出された意見をホーム運営や介護サービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に、出席して頂き空室状況等報告し鞍手町の、高齢者の情報交換し協力関係を築いています。	新型コロナ5類移行に伴い、コロナ状況を判断しながら、町のふれあいフェスタや鞍手町のグループホームが集まる「ふれあい交流会」に参加して、情報交換を行う機会を活かしながら、行政と協力関係を築いている。運営推進会議に行政職員の参加があり、ホームの現状を理解してもらい、情報交換しながら連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ベットからの転落され骨折にて入院され、スタッフとの会議や身体的拘束運営推進会議等を開き、職種の違いや、専門分野の方等の意見を取り入れ、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	身体拘束の職員研修を行い、身体拘束が利用者にも与える影響や禁止行為の具体的な事例について話し合い、職員は身体拘束をしない介護の実践に取り組んでいる。転倒の危険の高い利用者の居室を、職員が目が届く台所近くに変更する等、見守りを強化する事で身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止勉強会を開き、スタッフ全員に周知徹底、スタッフ同士の声掛け等々年2回のスタッフの教育徹底防止に務めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援に関して、お一人おひとりに合った自立支援や、状態の変化に合わせて努力しミーティング等で、成年後見制度を含め話し合いの場を設ける。	権利擁護の制度に関する外部研修を受講して、ホームで伝達研修を行い制度の理解に努めている。制度に関する資料やパンフレットを用意し、利用者や家族から相談があれば、分かり易く説明し、関係機関に相談しながら制度が活用出来る支援に取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、規約をその場で説明し、不安や疑問に関しても契約時に毎月一回は、お尋ねし理解・納得して頂く様務めている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からの要望に関して、ご家族への報告・承諾を得て、対応し反映し外部者にも事例を基に、意見等を伺い反映に活かせる様務めている。	職員は、利用者の意見や要望を聴き取り、可能な限り実現に向けて取り組んでいる。月1回の支払い時に家族と話し合い、利用者の健康状態や暮らしぶりを報告し、家族の心配な事を聴き取り、ホーム運営や利用者の介護サービスに反映させている。遠方の家族とは、電話等で意見や要望を聴き取っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	先ず代表と管理者での話し合いをし、職員からの状況等を聞き取りし、意見・提案を皆で考え、ミーティングの場で、考え反映に目指している。	新型コロナ5類移行に伴い職員会議を開催し、職員の意見や要望、提案等が出しやすい雰囲気の中で、活発な意見交換が行われている。出された意見や要望は、出来ることから速やかに、ホーム運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の実績把握し、職員の要望を聞かれ各自が、働きやすい環境作りや、向上心を持てる職場環境作る様に努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集に、年齢性別に制限はしておらず、採用時も得意分野や苦手分野等を聞き、能力発揮出来る様に配慮する。	勤務年数の長い職員が多く、チームワークの取れた働きやすい職場環境のため、職員は定着している。代表は、職員の能力や特技を把握し、適材適所に職員を配置し、職員がそれぞれの能力を活かし、苦手なところは職員間で協力しながら楽しく働ける職場環境である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティング・スタッフ教育の場で、周知徹底に努め利用者様の人権を尊重するために、職員で意識を共有する様に取り組んでいる。	職員は、理念「心」を大切に、「温もり・やさしさ・安心」を常に意識して、日々の介護サービスに取り組んでいる。代表は、日頃から利用者の人権を尊重する事の大切さを繰り返し説明し、職員一人ひとりが理解して、利用者の人権を尊重した介護サービスに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修・個人面談にて、一人ひとりの経験・能力を発揮出来る様支援している、職員のスキルアップに向け外部研修の参加の支援も実施に向け取り組んで行きたい。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りは、コロナ五類になり、少しづつ出来る様になり、サービス向上に向け取り組みに努力して行きます。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	理念に基づいて、優しい声掛け、モニタリングでの困り事に対し、安心出来る様に配慮し、出来るだけ叶えられる努力に、努めています。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との毎月一回の、状況等の報告をし、要望に応えられる、信頼関係を保てるように努力しています。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度の状況報告等で、ご本人様が必要としている事や、ご家族の必要としている事を受け止める対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「ありがとうございます・ごめんなさい」はかえてでは、一番大事で大切な言葉に思い、お互い合える関係性を築いて行き、相手の立場で考えられる職員教育も含め、支え合える関係を築いて行ける努力をしています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	まだ玄関先と時間制限の中ですが、月に一度ですが、ご本人様とご家族面会時に、○○が欲しい○○へ行きたい等で、要望に応じて頂いける方や、家の事で忙しい方もいらっしゃる中でも、お互いに顔を見ただけでも嬉しいと、仰るので良い関係を築いて行けてると思っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達も来ていただいたり、ご家族からの連絡で○さんが、会いに行きたいとの要望があったり、身寄りがいない方も居たりして、支援ができていない方もいます。	近所からの入居者が増えているので、友人、知人の面会も多く、馴染みの関係を継続し、利用者の楽しみなひと時である。新型コロナ5類移行に伴い、馴染みの人や場との関係継続の支援を、コロナ状況を判断しながら実施していくことを検討している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士仲のいい方や、気が合わない方もいらっしゃると思いますが、スタッフが中に入り歌をうたったりと、中和が取れる様に配慮し、上手く支援出来ています。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用中、質の良いサービスの提供を心掛け、サービス終了後ご家族の方、病院、福祉関係からの、問い合わせにより相談支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始から数ヶ月の利用者様の中には、「住み慣れた家に帰りたい！」と困難な場合は、ご家族に相談し、スタッフと一緒に1・2時間程帰って見たりと、試行錯誤しながら検討しています。皆様が意向にそって、希望が叶えられる様務めていきます。	ホームでの日常会話から、職員は利用者の思いや意向の把握に努め、家族に葉書を出したい方には書いてもらい、ポストへの投函を一緒にする等、利用者の言葉を聞き逃さず、希望を実現して利用者の生きがいに繋がるように努力している。意向表出が困難な利用者には、職員が寄り添い利用者の思いを聴き取っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本来の馴染みの暮らしや生活環境までは、難しいですが、趣味をした方の継続や、歌が好きだった方等カラオケをしたり、CDを掛け皆で歌ったりと、生活環境に関しては、家で暮らしていた時の写真や裁縫道具等々を、持ち込み馴染んで頂いています。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	夜勤者からの申し送り、日勤者から夜勤者への申し送りや、申し送りノート等の活用し、利用者様一人ひとりを把握できる様、スタンス全員が支援に努めています。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様ご家族の意見や要望を聞き取り、利用者様が毎日穏やかに暮らしていけるケアプランの作成をしています。	利用者や家族の意見や要望を事前に聴き取り、担当者会議で検討して利用者本位の介護計画を半年毎に作成している。毎日のケース記録や申し送りを通して定期的なケアの見直しも行なっている。面会が困難な家族には、職員が電話で報告し、家族の意見や要望を聴き取っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフの困り事を、皆の意見集め課題をまとめ、グループワークを開き、実践・結果・気づきを月に一度経過を共有し活かしています。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族に合った、柔軟に対応しサービスに取り組んでいます。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	少しずつボランティアの方訪問を受け入れ、楽しく過ごして頂ける時間を、共有できる様に支援していきたい。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診に月2回来ていただき、関係は築けている。	入居時に利用者や家族の希望を優先して主治医を決めている。病院受診は家族対応やホーム職員が同行する場合もあり、利用者の医療情報を家族と共有している。ホーム提携医による2週間毎の往診体制と必要に応じた訪問看護師、介護職員との連携で、24時間安心の医療体制が整っている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医師との連携がしっかり取れ、訪問看護が必要に応じ、Drとご家族に管理者・ケアマネとの面談し介護職との共有徹底し、支援に努めています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	こちらからも相談し、病院からの連絡情報を頂いたり、その情報をご家族に伝えご理解して頂き承諾して頂き、関係づくりも出来ている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合としての、ご家族には話し合いはしているが、まだ元気な状態の時はそこまでハッキリとした解答は出なく、承諾書までは行かないのが現状ですが、重度化になって話し合いした事を、理解していただき、改めて方針を共有し取り組んでいる。	契約時に利用者や家族と話し合い、ホームで出来る支援について承諾を得ている。ホームでの看取りは行っていないが、ここで亡くなった方もおられる。利用者の状態を看ながら家族と相談し、主治医や関係者で連携しながら、出来る限りホームで暮らすことが出来る支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の消防訓練と同時に実施を行っています。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防避難訓練年2回行っているが、地域との協力体制ができていないのが現状です、来年度より義務化になるので、BCP対策マニュアルを作り緊急事態に備えたい。	毎年2回昼夜を想定した火災時の避難訓練やホーム裏の河川の増水を想定した防災訓練を実施している。避難訓練では、毎回火元を変えたり、2方向の避難経路で訓練する等、緊張感を持って取り組んでいる。災害時に備えて、非常食、飲料水、非常持ち出し袋の備蓄をしている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けや、ケアに対応し気を付けて、努力しています。プライバシー保護の取り組み等のミーティングで、尊重やプライバシーは守れているか？振り返り心新たに努めています。	利用者のプライバシーを守る介護の在り方を、職員間で話し合い、利用者のこれまでの生き方や考え方を尊重した声掛けや対応を心掛け、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護サービスに取り組んでいる。また、利用者の個人情報の取り扱いは慎重に行い、職員の守秘義務についても周知を図っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の思いや、希望表現を表せる環境作りに努力しています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の希望にそって、支援し日々の生活が穏やかに過ごせる様対応している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様の意志がある方には、洋服を選んでいただき、意思疎通が困難の利用者様にはお手伝いさせて頂いています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態を把握し、声掛けにてできる利用者様はスタッフと一緒に片付けを手伝っています。	利用者の嗜好を聴きながら献立に取り入れ、旬の新鮮な食材を使って職員手作りの料理をユニット毎に提供し、食事を楽しむ事が出来るよう支援して「かえでの食事は美味しい」と評判である。土筆の袴取りや蒨の皮剥き等、利用者職員と一緒にやっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専門の栄養士がいないので、ハッキリした数字ではできないが、水分量は出来てます、往診に来られた時に、体重測定や採血検査もあるので、結果をDrと相談しながら、現状維持出来る様確保し、支援してます。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所に口腔ケアセットを準備、朝、夕声掛けにて口腔ケアしていただき、困難な方は口腔ケアスポンジ、口腔ウエットシートにて、スタッフが支援にて口腔内清潔保持に努めている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の思いや、ご家族の思いに耳を傾け、状況や状態等を、夜勤者や日勤者からの申し送りを共有し、日々の習慣を活かした支援を行っています。	職員は、利用者の生活習慣や排泄パターンを把握して、タイミングを見ながらトイレ誘導を行い、利用者が重度化しても、トイレで排泄の支援に取り組んでいる。オムツ外しやオムツ使用の軽減に力を入れ、改善に向けた成果が表れ、利用者の自信回復とオムツ使用の軽減に繋がっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員が影響も理解し、無理のない運動や散歩等や個々に合った、飲食の工夫を心掛けた予防に取り組んでいます。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否の利用者様もいて、浴室へ行くまでの声掛けに大変な事もありますが、入浴するとスタッフとゆっくり会話がはずみ、入浴後は「気持ち良かった、ありがとう」と言って頂き、利用者様の希望に添える様心掛け、支援している。	入浴は、利用者の希望や体調に配慮しながら、週2、3回を基本としている。午前中に入ってもらえることが多いが、気分が乗らないときは無理強いせずに、午後にならしたり、職員が代わって声掛けする等柔軟に対応している。入浴は利用者職員が一对一で会話出来る大切な時間と捉え、本音の話を引き出している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	皆様自由に、居室で休まれたり、趣味を楽しまれたりと、夕食後は自由に居室へ戻られ、安眠されています。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がない様常に氏名、曜日、日付等を声掛け確認し、服薬していただき、薬の変更があった時は申し送りノートに記入し、スタッフ全員が把握出来る様にしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張り合いを、100%感じてはいただけてないとは思っていますが、少しでも喜んで頂けるように、利用者様の声に耳を傾け、支援しています。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染に十分配慮し、戸外へ出れるようになり、桜や秋桜や紅葉等、季節を感じて頂ける事に努めて行きます。ご家族と一緒に外出し協力も、して頂いてます。	新型コロナ5類移行に伴い、季節の花見やドライブ、家族が同行しての外出支援を行い、利用者の生きがいのある暮らしに繋げている。コロナ状況を判断しながら、気候の良い時期は中庭に出て、楓の大木を眺めながらの散歩やホーム周辺の散歩、少人数でのドライブに出かける等して気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持に関しては、所持出来ない利用者様は、ご家族若しくは事務所での管理してます。所持出来る方には、金額を決め所持して頂いてます。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話も自由に使えるよう、支援しています。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今の所不快や混乱はありませんが、温度にはお一人おひとりの温度差があるので、配慮しながら調節しています。季節感には庭に樹々が有り樹の色で、季節を感じ花や葉等に触れて頂けるよう、工夫しています。	広い芝生の中庭やウッドデッキから、利用者が季節を五感で感じながら、開放感のあるゆったりとした空間である。リビングルームでは、利用者と職員の会話も弾み、笑い声が溢れている。換気を小まめに行い、清掃や整理整頓の行き届いた清潔感のある共用空間である。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様自ら、日中リビングにて過ごされる方が多く、出て来られる方が多く思い思いに過ごして頂き、CDを聴いたりYouTubeで音楽や映画鑑賞等、お一人おひとりの希望が叶えられる曜日が有りその日を楽しみにされているので、スタッフが声掛けにて促しています。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用契約時に、ご本人ご家族と相談し、好みの家具、テレビ等持って来て頂き、入所後は希望に添える様に支援していきます。	入居前に利用者や家族と話し合い、利用者の馴染みの家具や寝具、仏壇や大切な写真等を持ち込んで貰い、生活環境が急変しないように配慮して、利用者が安心して過ごせるよう支援している。利用者の状態によっては、マットレスを床に置いてベッドからの転落、転倒を予防する等、利用者の安全にも配慮している。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの、状態・状況に合わせた環境作り「できること」「わかること」日によってはできなかつたり・わからないことも有り、スタッフが行動を共に寄り添い、優しい声掛けをしたり、居心地良い環境を作っていく様に工夫している。		